令和4年度　小平市立小平第一小学校　学校評価報告書

学校の教育目標　人権尊重の精神を基調に、生涯学び続ける国際性豊かな日本人の育成を目指して、以下の教育目標の具現化に努める。
〇考える子　・やさしい子　・やりぬく子　・元気な子

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　子どもが輝き、笑顔あふれ、明日が待たれる学校　家庭・地域社会と連携した学校　教職員が個々の力を発揮し、協働して活動する学校　安全で美しく、安心して学び集える学校
【目指す児童・生徒像】〇考える子　・やさしい子　・やりぬく子　・元気な子　今年度の重点目標は「考える子：異なる意見を受け入れ、深く考え主体的・創造的に問題解決に取り組む子供」
【目指す教員像】　「教えるプロ」としての自信と使命感をもって、多くの課題に取り組む。子どものもつ良さを十二分に発揮させる教育活動を展開する。

前年度までの学校経営上の成果と課題

（成果）自然に助け合ったり声を掛け合ったりできる児童の集団や学級・学年、教職員集団がつくられてきた。
（課題）地域との連携を深め、小平で基礎を培う生きる力（知・徳・体）の強化、習得→活用→探究で「わからないゼロ」、「いじめをしない　させない」道徳教育、これらを意図的・計画的に取り組む。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	「わからないゼロ」を目指して、習熟度に合わせた指導を充実させるとともに、学習規律や授業時間の確保を徹底する。	3	2	算数の習熟度別指導の徹底に加え、月1回の補習日を設定し、学習の不足を補うとともに、学力の向上を図る基礎・基本としての学習規律について、全教職員が足並みをそろえた指導を徹底し、児童の落ち着いた学びの機会を保障する。	4	3	想像力の低下や学習に苦手意識をもたないよう、学習へのきっかけや興味関心をもてるような指導をしていただきたい。	「全員を到達させる目標」をより明確に設定して、指導改善をすすめる。また、総合的な学習の時間など、自分で学習課題を立てて取り組む活動への意識は高いことから、教科の学習の中でも自分で課題を設定して取り組む活動を取り入れ、学習意欲につなげていく。
	GIGAスクール構想を推進する。	3	2	教師用デジタル教科書を活用し、わかりやすい授業づくりを推進するとともに、一人一台の学習用端末の日常的活用（文房具化）を推進する。また、キーボード練習ソフトを全校で活用し、児童の端末活用におけるスキル向上を図っていく。	4	3		学習用端末の毎日の持ち帰りに対応して、教科書の教室置き等の対応を進め、児童の負担軽減を図るとともに、朝学習や補習日における学習用端末を活用したドリル学習を継続的に実施し、基礎学力を保障していく。
健全育成（いじめ防止）	勘と経験だけによる指導を廃して、しっかりと調査等を行い、根拠・証拠（エビデンス）をもとにして指導していく。	3	2	いじめ防止を図る児童アンケートに加え、3年と5年でhyper-QUを実施し、学級づくりに生かすとともに、保護者にも説明していく。また、毎週の「生活指導夕会」の中で、教職員間の情報共有を行い、解決に向けた具体的対応を組織的に行う。	4	3	いじめや虐待や貧困等が課題となる今日では、味方になる存在がいない児童がいると思われるので、先生方には問題がないと油断することなく、児童の味方になっていただきたい。	今年度の成果を生かし、次年度は2～6年でhyper-QUを実施し、さらなる積極的生活指導の推進を図る。また、今後も組織的な不登校対応を徹底していく中で、校内に不登校を支援するための教室を設置し、環境面でのサポートも充実させていく。
	人間関係づくりをねらいにして、教育活動を実施する。	3	2	「あいさつをすること」をはじめ、社会性の育成を全校的に取り組むとともに、個性の伸長、人間関係づくりを重視した特別活動を推進する。また、UD（ユニバーサルデザイン）を授業の中核に特別支援教育の視点に立った授業改善を推進する。	4	3		学級会を通して互いの意見を聞いたり解決策を考えたりする活動ができている。今後は、自分にできることを考えたり、目標を立てたりする場面を設定し、集団の一員であることを自覚し、自分も他者の役に立っているという達成感や自己有用感を高めていけるようにする。
地域連携	東京都型コミュニティ・スクールとして、月に1回、学校経営協議会を開催し、コミュニティ・スクールを活用した学校改革に取り組む。	2	2	教育課程・人事・予算などについて協議を行うとともに、創立150周年行事を検討していく。また、学校広報は地域の声をできるだけ反映して作成し、外から中がよく見える学校を目指していく。	3	3	人との接し方や人付き合いを児童は日々学んでいる。 周りの目で見て声をかけるなど周囲や地域の教育力が大事である。	法定コミュニティ・スクールに向けて、実施した学校アンケートの分析をもとに、保護者・地域の願いを反映させて重点目標の見直しを行うとともに、学校経営協議会を中心に、150周年行事の計画を進めていく。
	地域とWin-Winの関係をさらに推進する。	3	2	教科・領域で地域を教材とした単元作成を推進し、地域とともに授業を企画する中で、地域に児童を知ってもらう。地域教育コーディネーターと連携し、学校支援ボランティア組織を充実させ、学校だけで子どもたちを育てる体制から脱却する。	4	3		法定コミュニティ・スクールとして、地域の教育力を最大限に活用するとともに、学び合いを重視した「総合的な学習の時間」の中で、児童の理解と体験が往還する探究的学習を充実させていく。
業務改善・働き方改革	業務量の制限と時間管理によって、余裕のある仕事環境の創造に取り組む。	3	3	東京都の方針である「在校時間11時間」を守ることを徹底する。講師時間の確保や学校支援ボランティア及び学生ボランティアの積極的な活用により、個人の業務量を削減する。	4	4	いろいろな児童や保護者がいる。それぞれに対応する先生方は大変であると思う。先生方が疲れてしまわないように、先生方が元気で児童に関わってくださるように、家庭・地域でも児童をしっかり見て対応していきたい。	新たな職務が加わるなかでも全教職員がスキルを高め、児童が成長する学習・教育内容に意欲的に取り組めるようにする。
	学校行事の見直しで学校のスリム化を実現する。	2	2	教育効果を問いながら、開催方法の見直しや精選を図っていく。運動会の午前中実施や、土曜授業日と保護者会の同日開催、学芸会を学習発表会として計画するなど、持続可能な教育活動を検討していく。	3	3		職務を効率化を図り、職員が、児童とふれあう時間や保護者・地域との連携に向けて互いに相談し合う時間を確保していく。
人材育成	校内研究は学年全員が参加する形を基本とし、教員全員が主体的に参加しながら、校内全体の授業力向上を図っていく。	2	2	年間6回に設定した研究授業日には、玉川大学教職大学院教授の谷和樹先生を講師として招聘し、①教材研究の共有化、②発問・指示の明確化、③手立ての焦点化を研究の視点において、児童が主体的に活躍し熱中する授業づくりを推進する。	3	3	プログラミング教育等新しい教育を進めていただいたり、適切な教材を選んで使っていただいたりすることを期待している。 一方で、児童や保護者にとって相談できる場や時間をつくっていただけるとありがたいと思う。	幼少の連携（白梅幼稚園との共同研究）を推進し、新たな教科再編を提言していく。また、今後も、全員授業を原則とした授業研究を実施するとともに、学年単位での授業づくりを徹底していく。
	一人一台の学習用端末を活用した指導改善やオンライン学習を意識した研究を推進する。	2	2	「深い学びにつながる一人一台端末を活用した指導法の工夫」を研究テーマに、全学級で学習用端末の活躍推進を図るとともに、職員夕会を効果的に活用し、全教職員の学び合いによる活用スキルの向上を図っていく。	3	3		プログラミング教育を意図的・計画的に推進するとともに、学習用端末の日常的使用（文房具化）を継続し、学校連絡での使用などを検討していく。